

平成22年5月7日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19720238
 研究課題名（和文） 移動する人々とパスポートをめぐる力学に関する文化人類学的研究
 研究課題名（英文） An Anthropological Study of the Dynamics of Passport and Migration
 研究代表者
 陳 天璽（CHEN TIEN-SHI）
 国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授
 研究者番号：40370142

研究成果の概要（和文）：本研究は、パスポートや身分証明書など、具体的なものに注目することを通し、これまで着眼されてこなかった無国籍者の存在を掘り起こすことができた。

また、無国籍者に密着しインタビュー調査、そしてフィールドワークによって得られた成果に加え、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と共同主催したシンポジウムを通し、無国籍者の肉声を社会に知らせることができた。

無国籍者の存在のみならず、パスポートや国籍の今日的意味を考察するという成果を残した。

研究成果の概要（英文）：This research project has newly uncovered facts about the entity of stateless people that have been invisible existence. This project explored stateless issues through fieldwork as well as interviewing actual stateless people. Moreover, this project organized a symposium “The World Seen from the Viewpoint of the Stateless” with UNHCR which contribute to providing new meaningful encounters and fresh perspectives to foster better and in-depth understanding about the lives of stateless individuals.

Not only focusing on the issue of stateless people, but also analyzed passports and identification cards, this research successfully demonstrated the new perspective of passport and nationality in present-day.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	450,000	2,950,000

研究分野：社会人類学・移住、移動者研究

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：(1)移動、(2)パスポート、(3)国籍、(4)国境、(5)無国籍者、(6)ディアスポラ

1. 研究開始当初の背景

本研究は、国境を越えて移動をする人々を研究対象としている。研究開始当初、移民研究は盛んに行われていたが、本研究が主な対象とするディアスポラの人々、中でも無国籍者に関する研究は皆無であった。そういった意味でも、本研究は新規性を持った研究と位置づけられる。

グローバル化にともない、国境を越える人々の移動が急速に増えた。研究開始当初、出生地以外の国に暮している人口は約1億9500万人にのぼるといわれていた(国際移住機構)。世界の人口が65億であるなか、その3%は移民ということになる。今後も、国境を越える人の数はますます増えるであろうと予測されており、移民は国家にとっても、そして国際社会にとっても軽視することができない存在となっている。そのため、移民に関する研究は、国内外においてひとときわ注目を集めてきた。近代世界における国際的な人の移動をグローバルな視点から分析した先行研究(*The Age of Migration*, Stephen Castles & Mark J. Miller, Guilford, 1993)によれば、今後、国家というシステムは辛うじて持ちこたえるであろうが、移動する人々によってもたらされる文化の融合や政治経済の地域的な統合、そしてグローバル化する経済は、排他的な国家への忠誠を侵食していくであろうと分析していた。

言うまでもなく、移民は近年に始まった現象ではない。これまでにも、多くの研究がなされてきている。しかし、1970年代までの、移民に関する研究は、移民送出国側か、移民受け入れ国側かのいずれかのみ焦点を当ててきた。例えば、米国の移民研究は、出て行く移民の背景が論じられることはあっても、考察の主眼は、米国に入国してきた移民が、排斥に直面しながらも、地位の向上とア

メリカ社会への参入を模索した適応過程におかれてきた。また、人類学者の研究対象は、伝統的な共同体が中心であり、移住者の母社会である伝統社会から出発することが常であった(『グローカリゼーションの人類学』、前川啓治、新曜社、2004)。つまり、これまでの移民に関する研究は、移動する人々に着目はしながらも、もっぱら国内の問題として扱われており、その視点は国家レベルにおかれてきた。しかし、移民というテーマこそ、国境横断的な視点が必要であり、そうした視点からヨーロッパにおける移民を分析した研究がなされるようになってきている(『移民』、山田史郎・北村暁夫など、ミネルヴァ書房、1998)。

また、国際移動論でも、さまざまな方法による移民や難民へのアプローチが進められており、学際的な視点から各分野の国際移動研究における隙間を埋めようと試みた研究があった(『移民と難民の国際政治学』、マイロン・ウェイナー著、内藤嘉昭訳、明石書店、1999)。

以上のような先行研究の流れのなかで、本研究が主な対象とする無国籍者にまで目が届いた研究は、ほとんどなかったといえる。

2. 研究の目的

ディアスポラや無国籍の人々に注目し、彼らがいかに発生し、そしていかなるアイデンティティを有しているのか、彼らにとって、国籍や国境が持つ意味とはなにか、彼らのような帰属がはっきりしない個人にとって、国家とはどのような存在であり、彼らとどのような関係性にあるのか、そして、彼らが有する世界観や意識にもとづいた活動が、現代社会にどのような影響を与えてゆくのか。こうした問題を一つ一つ解明することを通じて、グローバル化時代のトランスナショナルな

アイデンティティのあり方について考察することが本研究の目的である。具体的には以下の三つの課題から、研究をすすめていく。

まず第一に、グローバル化が進む社会において再度国境というものを直視し、希薄化しつつあるボーダーと、新たに生み出されているボーダーを明らかにすることである。具体的には、法やシステムが形成しているボーダーと人々の意識におけるボーダーとの相違、そして、個人のアイデンティティと他者が持つイメージとの相違などを、ディアスポラや無国籍者のインタビューを通し彼らの体験をもとに抽出する。

第二に、はざまにいる人々に対する認識の仕方を模索することである。本研究の対象である脱国家的なアクターを、ありのまま理解するために必要な新しい人類学的視点を検出する。また、さまざまなディアスポラの比較を通し、彼らが共有する優位点と問題点を明らかにし、普遍的なモデルを提示する。

以上を通し、第三の課題は、こうしたアクターが持つ脱国家的な特徴をいかに生かすかということを探求することによって、グローバル化社会の協力体制の構築を可能にする筋道を模索することである。

3. 研究の方法

本研究が特に注目する無国籍者について研究を進め、またその成果を通して社会に無国籍の存在を知らしめるために、いくつかの工夫を行った。

先行研究が少ない無国籍者に関しては、各政府、研究機関の調査報告などの集積に努め、現状を包括的に把握する。また、国家、国籍、国境、旅券、パスポートなどに関する先行研究を整理し、無国籍者の視点から文化人類学的分析を試みた。

研究過程では、特に、無国籍者の存在を掘

り起こすことに多くの労力を要した。無国籍者の実態を知るために、何度もフィールドに出かけて情報を収集し、そして無国籍者との信頼の醸成に時間をかけた。信頼を醸成した後、当事者のインタビュー調査を行った。各ケーススタディーを扱う際は、細心の注意を払い、丹念な聞き取りとフィールド調査をおこなうように努めた。具体的には、群馬や名古屋、横浜など国内調査を頻繁に通ったほか、中国、タイ、フィリピンなどにおいても取材・調査をおこなった。

無国籍者の問題を社会に知らしめるため、二年度目には国際フォーラムを企画し、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と共同で「無国籍者からみた世界—現代社会における国籍の再検討」と題するフォーラムを主催した。

フォーラムでは、無国籍者に関するドキュメンタリー作品を2本上映したほか、国連難民高等弁務官事務所の駐日代表、ヨハン・セルスによる基調講演、無国籍の当事者、弁護士、研究者、国連職員など9人のパネリストによる発表およびディスカッションをおこなった。

発表は、人類学的視点と法学的な視点の二部構成でおこない、ディスカッションでは、活発な議論が交わされ、参加者からも多数の質問が寄せられた。無国籍者に焦点を当てながら、医療、保険、教育、就職、結婚、出産、介護など多岐にわたる議論を行うことができた。

また、本研究から派生し、NGO「無国籍ネットワーク」が発足した。その「無国籍ネットワーク」における活動を通して、無国籍者との交流、そして情報収集などを行った。

以上により、本研究は、これまで着眼されてこなかった無国籍者を社会に知らしめ、パスポートや国籍の今日的意味を考察するという成果を残したといえる。

4. 研究成果

2008年に主催したフォーラムの内容は、解説や編集が加えられ『忘れられた人々 日本の「無国籍」者』（明石書店、2010年3月）として出版された。また、関連テーマの論文を雑誌や図書においても寄稿した。論文など活字による成果は、次項（5. 主な発表論文等）に挙げた通りである。

本研究は、論文や書物以外の研究成果を多く残している。フィールドワークやインタビュー調査の過程は、2009年3月25日、NHKのBS1ハイビジョンスペシャル（90分番組）「無国籍—ワタシの国はどこですか」と題するドキュメンタリー作品として放送されたほか、2009年4月14日、NHK教育「無国籍を知ってほしい」などの番組として放映された。社会一般に広く無国籍者の問題、そして現代における、人々の移動と国籍、国境の問題、そしてグローバル社会における協力体制について考察するという本研究の目的が、映像という形をとおして、広く達せられたと考える。

また、本研究から派生し、NGO 団体「無国籍ネットワーク」が2009年に発足しており、研究成果が市民活動として具体化されている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

- ①陳 天 璽「華人の移動とその目的—世代別・地域別比較の試み」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』（人間文化叢書 ユーラシアと日本—交流と表象—）有志舎、2010、15—44頁、査読無。
- ②陳 天 璽「世界のチャイナタウンからみた人びとと文化の移動」鈴木正崇編『東アジアの民衆文化と祝祭空間』慶應義塾大学東アジア研究所、2009、3—28頁、査読無。

- ③陳 天 璽「世界のチャイナタウンと拡大する華人ネットワーク」横浜商科大学編『横浜中華街の世界』、2009、63—80頁、査読無。
- ④陳 天 璽「華人社会の文化とアイデンティティ」横浜商科大学編『横浜中華街の世界』、2009、46—62頁、査読無。
- ⑤陳 天 璽「無国籍問題を考える」『神奈川県ロージャーナル』第2巻、2009、25—36頁、査読有。
- ⑥陳 天 璽「中華学校に通う日本の子どもたち」『文化人類学』74巻1号、2009、156—175頁、査読有。
- ⑦陳 天 璽「特集「国籍とパスポートの人類学」 “パスポート学”への挑戦」『民博通信』124号、2009、1—17頁、査読無。
- ⑧陳 天 璽「無国籍者からの架け橋、無国籍者への架け橋—伝達の可能性を考える」『Mobile Society Review 未来心裡』15号、2009、60—63頁、査読無。
- ⑨陳 天 璽『「Where is Home?」から「Home Everywhere」へ』『国立民族学博物館調査報告「移民とともに変わる地域と国家」』NO. 83、2009、29—40頁、査読有。
- ⑩陳 天 璽「無国籍者との共生」川村千鶴子編著『移民社会日本と多文化共生論—多文化都市新宿の深層』明石書店、2008、315—336頁、査読無。
- ⑪陳 天 璽「漂泊する華僑・華人新世代の越境」アジア政治経済学会監修『現代アジア研究1 越境』慶應義塾大学出版会、2008、297—324頁、査読有。
- ⑫陳 天 璽「越境と無国籍者」『アジア遊学』104号、2007、172—175頁、査読無。
- ⑬陳 天 璽「無国籍者をめぐる越境とアイデンティティ」『年報政治学「排除と包摂と政治学」』第2号、2007、29—48頁、査読有。
- ⑭CHEN TIEN-SHI「Minorities “in Between” China and Japan」『Bulletin of the National Museum of Ethnology』31巻3号、2007、419—437頁、査読有。

[学会発表] (計3件)

- ① C H E N T I E N S H I “Reconstruction and Localization of Ethnic Culture : the case of Yokohama Chinatown as a tourist spot,” 国際人類学・民族学連合 I U A E 2009, 2009年7月28日, 雲南大学 (中国・昆明)。
- ② 陳 天 璽 「国際移動の主体にみるアイデンティティ」 アジア成蹊学会, 2008年5月24日, 東京外国語大学 (東京都)
- ③ 陳 天 璽 「Ethnic School in Transition and “Multiethnic Japan」 日本文化人類学会, 2007年6月2日, 名古屋大学 (愛知県)

[図書] (計1件)

- ① 陳 天 璽 『忘れられた人々 日本の「無国籍」者』、明石書店、2010、161頁。

[その他]

- 国立民族学博物館ホームページ
<http://www.minpaku.ac.jp/staff/chen/>
<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/19720238.html>
- 無国籍ネットワークホームページ
<http://stateless-network.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陳 天璽 (CHEN TIEN-SHI)
国立民族学博物館・民族社会研究部・
准教授
研究者番号：40370142

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし